

<特別活動>

指導事例一覧

番号	活動名	言語活動の特色	単元名	分類	活動
1	ホームルーム活動	選択教科・科目等の選択の視点に関する話し合い活動の事例	科目選択をする際の視点についての意見交換をしよう	(1)イ(i) (ii)	④⑥
2	学校行事	体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりする活動の事例	ボランティア活動報告会	(2)イ	①⑥

<分類・活動の見方>

分類・・・言語の役割を踏まえ言語活動を分類したもの（詳細は第2章7～9ページ参照）

- (1) 知的活動（論理や思考）に関すること
 - ア 事実等を正確に理解し、他者に的確に分かりやすく伝えること
 - (i) 事実を正確に理解すること
 - (ii) 他者に的確に分かりやすく伝えること
 - イ 事実等を解釈し説明するとともに、自分の考えをもつこと、さらに互いの考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること
 - (i) 事実等を解釈し、説明することにより自分の考えを深めること
 - (ii) 考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること
- (2) コミュニケーションや感性・情緒に関すること
 - ア 互いの存在についての理解を深め、尊重すること
 - イ 感じたことを言葉にしたり、それらの言葉を互いに伝え合ったりすること

活動・・・思考力・判断力・表現力等を育むための学習活動（詳細は第1章5～6ページ参照）

- ① 体験から感じ取ったことを表現する
- ② 事実を正確に理解し伝達する
- ③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
- ④ 情報を分析・評価し、論述する
- ⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する
- ⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

特別活動－1(ホームルーム活動) 選択教科・科目等の選択の視点に関する話し合い活動の事例

【学習活動の概要】

1 ホームルーム活動 科目選択をする際の視点についての意見交換をしよう		
2 目標 科目選択を行うための視点や留意点に関する話し合い活動を通して、自らの将来を考える力を育て、望ましい人間関係を形成する。		
3 評価 進級後の選択科目の履修に関して、将来の進路希望や進路に関する客観的な情報を視野におさめながら自己の考えや思いを自分の言葉で適切に表現しているか、他者との考え方の違いや多様性を尊重しながら意見交換をしているかなどの観点から一人一人の生徒の長所を積極的に把握するとともに、ホームルーム全体として成員間の望ましい人間関係が形成されているかどうかを把握し、適切な自己表現力や他者への思いやりなどを育む今後の取組に資する。		
4 活動の概要 本活動は、進級後に選択履修する科目について、①教師が設定した架空の生徒の事例に関するホームルーム全体での意見交換と、②それぞれの生徒の履修計画に関するグループ内での意見交換を通して、自らの将来を考える力を育て、望ましい人間関係を形成することを目指した活動である。また本活動は、意欲を持って進んで学習に取り組み、充実した学校生活を送るとともに、自己の個性を伸ばすための一連のホームルーム活動の一環として実践されるものである。		
5 活動の計画		
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点
	<p>事前の活動として、「卒業後 10 年間のライフプランの作成」(ホームルーム活動 3 時間＋学校行事)を行う。全校行事である「28 歳の先輩たちに学ぶ」(卒業して 10 年経過した数名の卒業生による講演会)に合わせ、ホームルーム活動において「ライフプラン作成のための情報検索」「ライフプランの作成」「グループ内での発表と意見交換」を行い、この期間中に 1 学年全体の行事として「独り立ちまで How much?」(大学受験に必要な費用・大学での授業料・一人暮らしに必要な費用・結婚や子育てに関する費用等に関するファイナンシャルプランナーなどによる講演会)及び「科目選択オリエンテーション」を実施する。</p>	
第 1 時	<ul style="list-style-type: none"> ○ A さんに「お勧めの選択科目」をアドバイスしよう ・教師が設定した架空の生徒 A のライフプランを基に、2 年生・3 年生での履修計画をクラス全体の意見交換を基に作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒 A の将来への思いをくみ取った上での意見交換となるよう配慮する。 ・客観的な進路情報に基づいた発言となるよう助言する。 ・考え方の違いや多様性を尊重した意見交換となるよう助言し、自分の考えやホームルーム全体としての考えを発展させるよう配慮する。
第 2 時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2 年生・3 年生での履修計画をよりよいものにしよう ・一人一人の生徒があらかじめ作成した履修計画を数名ごとのグループ内で発表し、意見交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の内面に关わる内容を含む意見交換により、孤立感を深める生徒も存在し得ることに特に配慮する。
	<p>この活動の後に、一人一人の生徒が作成した「卒業後 10 年間のライフプラン」「2 年生・3 年生での履修計画」を基に、担任教師による個別面談を実施する。</p>	

【解説】

【本事例と学習指導要領の関連】

本事例における主な活動と学習指導要領 第5章 特別活動との関連は次のとおりである。

(3) 学業と進路

ウ 教科・科目の適切な選択

エ 進路適性の理解と進路情報の活用 (第2〔ホームルーム活動〕 2内容)

なお、「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」は、上記「ウ」に関して、次のように解説している。

この指導に当たっては、ガイダンスの機能の充実を図る観点から、ホームルーム活動の時間のみならず、教科・科目等の時間との関連を十分に図るとともに、教務、各教科及び学年の担当教師などが協力して、教科・科目や類型、コースの選択のためのオリエンテーションや体験学習、あるいは上級生の経験に学ぶ会などを計画的に実施することが大切である。また、そのような指導を踏まえて、選択教科・科目の理解と私の選択、先輩に学ぶ類型やコースの選択、などについて題材を設定し、選択教科・科目をどのような視点で選択したらよいかを話し合ったり、どのような理由で、どのような類型、コースを選択しようとしているかを互いに発表し合ったりする活動の展開が考えられる。

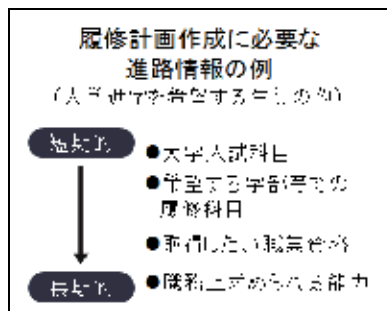
【言語活動の充実の工夫】

○ 他者との考え方の違いや多様性を尊重した話し合い活動

ホームルームは、学校における生徒の様々な活動の基盤としての役割を果たす場であり、生徒が心理的に最も安定して帰属できる「心の居場所」としての意義も大きい。ホームルームがこのような役割を果たすためには、相互の受容と共感による親密な人間関係に基づく家庭的な雰囲気醸成が不可欠であり、他者との考え方の違いや多様性を尊重した話し合い活動はその柱の一つである。

○ 幅広い進路情報を活用した意見交換

ライフプランの作成において、産業・経済の動向に関する情報、職業や職業生活の実情に関する情報など、進路の選択決定に必要な多様な情報を収集・活用することが重要であることは言うまでもない。しかし、科目履修計画の作成においては、生徒の視点が卒業直後の進路決定に必要な情報（希望する特定大学の入試科目など）に限定される傾向がある。この問題の克服に向けた助言を行い、幅広い進路情報を解釈し、説明する言語活動となるよう配慮することが不可欠である。



○ 孤立感を深める可能性への配慮

科目履修計画の作成など、学習や進路に関する諸問題について共に考え話し合うことは、自己をよりよく生かすとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、主体的に物事を選択し、現在及び将来を豊かに責任をもって生きていく自主的、実践的な態度を育てる上で重要である。しかし同時に、その内容が個人の内面にも関わることであるため、その方法や話された内容の扱いについて十分な配慮が必要である。また、そうして「自分」の問題と向き合うことにより、一層孤立感を深める生徒が存在することにも配慮することが大切である。

特別活動－2(学校行事) 体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、
【学習活動の概要】 発表し合ったりする活動の事例

1 勤労生産・奉仕的行事		ボランティア活動報告会
2 目標		
2年生の学校行事として実施するボランティア活動（3日間）の報告会（ボランティア活動シンポジウム）を通して、他者と体験を共有して幅広い認識につなげ、社会の一員としての役割の認識を深めるとともに、人間としての在り方生き方の探求に資する。		
3 評価		
ボランティア活動を通して感じたり気付いたりしたことを自己と対話しながら振り返って発表できているか、他人を思いやる心や社会貢献の精神に基づきながら社会の一員としての果たすべき役割に関する認識を深めることができているかなどの観点から一人一人の生徒のよさや可能性を積極的に把握し評価する。		
4 活動の概要		
本活動は、学校が所在する市内の社会福祉施設（老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設等）において3日間実施したボランティア活動を振り返り、①それぞれの施設ごとの活動報告（グループ発表）と、②生徒代表（各ホームルームから1名）、社会福祉施設関係者（施設長など）数名、及び、市の社会福祉協議会代表者によるパネルディスカッションを実施し、「〇〇高等学校ボランティア活動シンポジウム」として開催する。本事例では、2年生に加え、1年生全員の参加を原則とし、保護者やボランティア活動に協力いただいた施設関係者などにも参加を呼びかけて実施する。		
5 活動の計画		
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点
	<p>「ボランティア活動シンポジウム」に至るまでの主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市の社会福祉協議会代表者による講話「〇〇高等学校のボランティア活動に期待すること」を含むボランティア活動の実施に向けたオリエンテーション（2年生対象：学校行事） ○グループ分けと活動計画の作成（ホームルーム活動（3時間）及び放課後を活用した事前訪問による打合せ（1回）） ○市内の社会福祉施設における3日間のボランティア活動（活動日誌の作成を含む） 	
事前の活動	○ グループごとの活動報告発表の準備（ホームルーム活動（2時間）及び休み時間・放課後等を活用した自主的活動）	・活動内容に関する報告にとどまらず、活動中に感じたり気付いたりしたことにも焦点を当てるよう助言する。
本行事	○ ボランティア活動シンポジウム ・施設ごとの活動報告（グループ発表） ・パネルディスカッション（生徒会「ボランティア委員会」に所属する2年生2名による司会進行）	・情報機器の効果的な活用も促進し、他者に的確に分かりやすく伝えるよう助言する。 ・他人を思いやる心、互いを認め合い共に生きていく態度などに支えられるボランティア活動の意義を再確認し、社会における自分の役割の自覚を促すようなディスカッションとなるよう助言することを通して、集団としての考えを発展させることに配慮する。
事後の活動	○ 一人一人の生徒による礼状の作成（ホームルーム活動（1時間））と事後訪問による謝意の伝達（放課後等）	
	<p>2年生における学校行事としてのボランティア活動は、生徒会の「ボランティア委員会」が継続的に実践するボランティア活動に発展し、生徒会活動の一環として定着している。</p>	

【解説】

【本事例と学習指導要領の関連】

本事例における主な活動と学習指導要領 第5章 特別活動との関連は次のとおりである。

(5) 勤労生産・奉仕的行事

勤労の尊さや創造することの喜びを体得し、就業体験などの職業観の形成や進路の選択決定などに資する体験が得られるようにするとともに、共に助け合って生きることの喜びを体得し、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるような活動を行うこと。

(第2〔学校行事〕 2内容)

(3)〔学校行事〕については、(中略)実施に当たっては、幼児、高齢者、障害のある人々などとの触れ合い、自然体験や社会体験などの体験活動を充実するとともに、体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの活動を充実するよう工夫すること。

(第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2)

【言語活動の充実の工夫】

○ 活動の事実と共に「心の動き」に焦点を当てた報告

ボランティア活動として「何を行ったか」の報告にとどまらず、活動中の困惑や失敗、それらを克服してやり遂げた喜びや充実感など、感じたことや気付いたことに焦点を当てた発表となるよう助言し、感じたことを言葉にしたり、それらの言葉を交流したりする言語活動としての意義が損なわれないよう配慮する。また、発表準備の過程においては、グループ内の生徒同士の考え方の違いや多様性を尊重した話し合い活動が十分なされるよう指導する。

○ 情報機器の効果的な活用

発表に当たっては、プレゼンテーションソフトや情報機器を効果的に活用するよう助言する。その際、制限時間内に発表が収まるよう指導すると共に、プレゼンテーションとしての技巧に過度にこだわるグループに対しては、シンポジウムのねらいを確認させ、それにふさわしい工夫をするよう助言する。その際、国語科「国語総合」における「話すこと・聞くこと」、情報科「社会と情報」における「情報の表現と伝達」や、総合的な学習の時間における「言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動」などにおける学びの成果を活用するよう促す。

○ ボランティア活動の意義や社会の一員としての役割の認識を深めるパネルディスカッション

学校行事における言語活動は学校行事の目標を実現する手立てであることを再確認し、他人を思いやる心、互いを認め合い共に生きていく態度、自他の生命や人権を尊重する精神などに支えられるボランティア活動の意義を理解し、多様な施設での様々な体験を共有しながら、社会の一員として自分が果たすべき役割の自覚を促すことをパネルディスカッションのねらいとして定める。このねらいを達成するためには、司会を務める生徒との事前の打合せはもちろん、登壇していただく社会福祉事業関係者に対する事前の説明を通じたねらいの共有化が不可欠である。

○ 生徒の「心の動き」を伝える礼状の作成

ボランティア活動に協力してくださった方々への礼状の作成に当たっては、礼状としてふさわしい文章の構成や展開、表現の工夫が求められる。しかし、その形式を顧慮する余り、虚礼的な表現が目立つ形骸化した文面とならないよう、十分配慮する必要がある。ボランティア活動を通して一人一人の生徒の気付きが伝わる礼状の作成に向けた助言が必要である。